洋上漂流物のモニタリングと予測シミュレーションに関する
国際ワークショップ

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、大量のガレキが東北沿岸から太平洋に流出しました。環境省の推計では、家屋や漁船等、種類も大きさも多種多様な約 150 万トンと推計されるガレキが一部北米大陸海岸に漂着したりしながら、今も太平洋を漂流しているのではないかと推測されています。

我が国では 2011 年来、総合海洋政策本部及び環境省のもとに関係機関が集い、米国と連携しながら、モデルを用いた漂流状況予測シミュレーションや衛星及び船舶などによる実態把握を行い、漂流ガレキの移動の時系列解析や予測及び検証に取り組んできました。

本ワークショップでは、我が国におけるこれまでの取組を紹介するとともに、米国との連携や英国の専門家からのコメント等を交えて情報を共有し、豊かな海づくりに向けた国際連携の推進に役立つことを願っています。

プログラム

第 1 部

18:15-18:25　環境省代表挨拶　小林正明（環境省　水・大気環境局長）

18:25-18:30　米国海洋大気庁挨拶 Nancy Wallace（Marine Debris Division, Chief）

18:30-18:40　趣旨説明及び日米合同漂流シミュレーションの成果紹介
淡路敏之（京都大学理事・副学長）

18:40-19:15　日本国における漂流予測シミュレーションの紹介

1) 大気海洋変動アンサンブル予測実験
○ 碓氷典久（気象庁気象研究所主任研究員）、
石川洋一（海洋研究開発機構グループリーダ）

2) 漂流ガレキ挙動予測
○ 川村英之（日本原子力研究開発機構研究副主幹）
小林卓也（日本原子力研究開発機構研究副主幹）

休憩　19:15-19:30

19:30-19:40 米国 NOAA における漂流ガレキ予測シミュレーション【ビデオ発表予定】
Amy MacFadyen, Glen Watabayashi （NOAA , Seattle）

19:40-19:55 人工衛星からの漂流ガレキモニタリング
John Phillip Matthews (京都大学教授)

19:55-20:15 英国における緊急時対応及び沿岸モニタリング
Jon Rees (Chief, Centre for Environment, Fisheries and Aquaculture Science)

20:15-20:30 船舶からの目視情報について　藤枝　繁（鹿児島大学教授）
20:30-20:50 フロアーからの意見
20:50-20:55　海洋研究開発機構挨拶　今脇資郎（海洋研究開発機構地球情報センター長）
解散

連絡先：海洋研究開発機構　国際海洋環境センター(GODAC)
〒905-2172 沖縄県名護市字豊原 224-3
TEL ： 0980－50－0111(代) FAX ： 0980－50－0123